

## 街路樹診断マニュアル(東京都版)が改定されました

副会長 山下 得男

東京都建設局は、1998年(平成10年)度に国内で初めて整備した「街路樹診断マニュアル」の4回目の改定を行いました。今回の改定には、2014年(平成26年)度版に引き続き、当協会が東京都から直接受注し業務を担いました。改定業務には、事務局を中心に各委員会の主に関東支部会員が携わりました。関係された方々には、大変なご苦勞を強いてしまいました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今回の改定の要旨は以下の通りです。



- ①初期診断について樹木点検として見直し
- ②外観診断の必須化と部位診断(外観診断)の判定基準の見直し
- ③精密診断を機器診断に名称変更、貫入抵抗測定器を標準的な機器と明記
- ④腐朽空洞率は参考基準値とし、総合判定の留意点を詳細記載
- ⑤B2判定樹木を対象とした再診断を「フォローアップ診断」と新たに位置付け
- ⑥診断後の処置方法を具体的に記載
- ⑦ステークホルダー調整を新たに章立て
- ⑧街路樹周辺において工事を行う際の留意事項を示した根の保護に関するガイドラインを作成

また、街路樹診断者の資格要件として、根株診断を含めた発注の場合は、街路樹診断士の資格に加えて、2年以上の実務経験を有した者と明記されました。全国的にみると、東京都版街路樹診断マニュアルは現在、決して一般的ではありません。国土交通省国土技術政策総合研究所発行の「街路樹倒伏対策の手引き」や独自に作成した街路樹診断マニュアルを使用している自治体が多いです。とはいえ、東京都版は国内で初めて整備された街路樹診断マニュアルであることから、その内容は一日の長があります。世界の潮流を意識した、先駆的な内容が今回の改定版にも網羅されています。

改定作業を通して感じたことがあります。

東京都では、データの蓄積が進められていないことがわかりました。その原因は、街路樹診断情報の一元化、統合化がなされていなかったことにあります。今回の改定では、当協会として統一的なデータ様式とフォーマットを示し、データ変換エンジンを用いてデータベース様式に自動変換できるようにデータフォーマットを作成しました。東京都は、新たに街路樹アプリを開発しています。これからの街路樹診断データがこのアプリに活かせるように、マニュアル改定に携わったものとして、東京都と関わっていくつもりです。

もう一つが、貫入抵抗測定器の波形の読み方に個人差が大きいことです。今回のマニュアル改定と平行して当協会が特命で受注した「街路樹診断における使用可能な機器の検証委託」を通して、当機器は健全材の厚みを調べる機器であることが再認識されたことは成果でしたが、PD型の回転抵抗と前進抵抗の波形の読み方、特に腐朽が進行中(半腐朽)の読み取りに個人差がみられました。これは是正する必要があります。



国土交通省は、街路樹においては2015年に「道路緑化基準」を改正し、道路巡回で落枝・枯れ枝・枯損樹木の有無等の確認と、必要に応じて専門家による調査が明記されました。公園樹木においては、2017年に「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)」を示しました。また、2019年に総合政策局が「グリーンインフラ推進戦略」を定めました。これには、自然環境等が有する多様な機能を活用して持続可能な国土・都市・地域づくりに取り組む、と記されています。当協会が定着を図っている「樹木のリスクマネジメント」に関する技術の市場は、確実に広がっています。

協会としては、今回のマニュアル改定に伴う会員向けの研修会を行っていきます。すでに総会をWebで開催し、各委員会活動もオンラインが一般化しています。また、新たに協会運営の武器となるeラーニングサイト構築に向けた準備も進めています。会員の皆様におかれましては、研修会を通じてさらなる研鑽をお願いします。また、協会活動への引き続きのご協力とご理解をお願いいたします。

 A decorative sign with a blackboard background and green leafy borders. The text on the sign is as follows:
 

<お知らせ>

前年度中止となった街路樹診断マニュアル研修、街路樹診断士認定講習・更新講習等につきましてはオンラインによる開催の検討を進めています。

今期末の8月末までには開催予定です。詳細につきましては決定次第、街路樹診断協会ホームページに掲載の予定です。

## 関西支部、九州支部の支部長が交代しました

関西支部は中島洋一氏から當内匡氏に、九州支部は飯田稔氏から小松奈津子氏に、支部長が交代しましたので、就任、退任にあたりご寄稿いただきました。

### 関西支部

関西支部長 當内 匡

昨年より関西支部長を拝命しております。関西支部では毎年NPOおおさか緑と樹木の診断協会と共催で、行政の街路樹担当者の方々を対象とした街路樹研修会を継続して開催しています。私もその企画担当として継続して関わって参りました。今後その企画にアーバンフォレスト推進を踏まえて、発信していきたいと考えております。コロナ禍で開催が昨年より延期しておりますが、オンラインでいち早く開催できるように取り組んで参ります。

また街路樹診断業務が市町村においても所々行われ始めており、協会としてお手伝いさせていただく機会も増えてきております。公共予算の限られる中、品質を保ちながら、効率的に業務を行っていく方法も検討していきます。

個人的には、2年前に当協会でISA大会に派遣していただき、世界を取り巻く情勢の把握をできたことが事業運営の糧となっております。今後海外情報の国内発信そして国内情報の海外発信のミッションにも応えながら頑張りますので、皆様にはご支援ご協力の程よろしく願いいたします。

関西支部副支部長(前支部長) 中島 洋一

昨年の10月に行われました定時社員総会理事会にて、新しい世代への交代として、新支部長に當内様に就任していただくという事になりました。

私は、前大阪支部長木山さんから2014年4期から引き継ぎ2019年10期まで約6年間、支部長として務めさせていただきました。その間、関西支部として各市町村への街路樹診断事業の啓蒙活動や講習会を行い、中でも街路樹診断士という言葉が、大津市の街路樹診断業務の仕様書に入りました。その後、関西の他都市でもご相談や診断業務の発注が徐々に広がっております。

関西支部でも大阪府下では初めて茨木市での発注業務を受注しております。また、講習会を兼ねた活動では、NPOおおさか緑と樹木の診断協会との共催など数々の講習会、古くは2008年の国際シンポジウム、2019年の国際シンポジウムでの関西支部実行委員長等を務めさせていただきました。

これからは街路樹診断協会の新しいビジョンに向かって、當内新支部長のサポート役の副支部長として協会の発展に寄与できればと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

### 九州支部

九州支部長 小松 奈津子

初めまして。九州支部の小松と申します。昨年、飯田前支部長の退任により後継として、残りの任期期間におきまして、九州支部の支部長を引き継がせていただくことになりました。皆様のご指導、ご支援にてこの役を務めることができますよう、よろしく願いいたします。

私は今年64歳になります。幹事の若返りを図ることも九州支部では考えております。息子は28歳ですが、樹木医になることができましたので、個人的にも次世代への世代交代も踏まえて考えております。よろしく願いいたします。

前九州支部長 飯田 稔

思い返せばあつという間の5年間でした。支部長は何もしなくていいからとの、当時の松本幸生事務局の甘言を真に受け(笑)、水野貞明前支部長からバトンを受け取りまして、平成27年9月(第7期)から令和2年8月(第11期)までの5期5年間を九州支部長として務めさせていただきました。ここまで大過なく務めさせていただくことが出来たのも私と同時に就任しました三宮洋事務局の気配りと差配によるところが大です。本当にお世話をおかけいたしました。おかげさまで本当に何もせずに過ごせました(笑)。そして九州支部の皆様方のお力添えも大変心強かったです。ありがとうございました。

最大の思い出としましては、国際シンポジウム「世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメント」を東京、大阪と並び開催できたこと。最高の思い出は九州支部長就任前からの念願だった、沖縄県にも正会員をとの思いが実現したことです。沖縄県では現在正会員2社、賛助会員1社で活発に活動されているのはうれしい限りです。

今回、2年任期の途中での退任をお願いいたしましたのは、東邦レオ株式会社の九州地区担当樹木医として60歳定年からの5年間を務める中で区切りをつけたかった私の我儘です。後任の小松奈津子新支部長をはじめ、九州支部の皆様方、本部の皆様方には多大なご迷惑をおかけいたしましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。

今後は賛助会員 飯田樹木医事務所として引き続き参加させていただきます。本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。そしてこれからもよろしく願い申し上げます。



# アメリカのアーバンフォレストへの取り組み

関西支部長 當内 匡

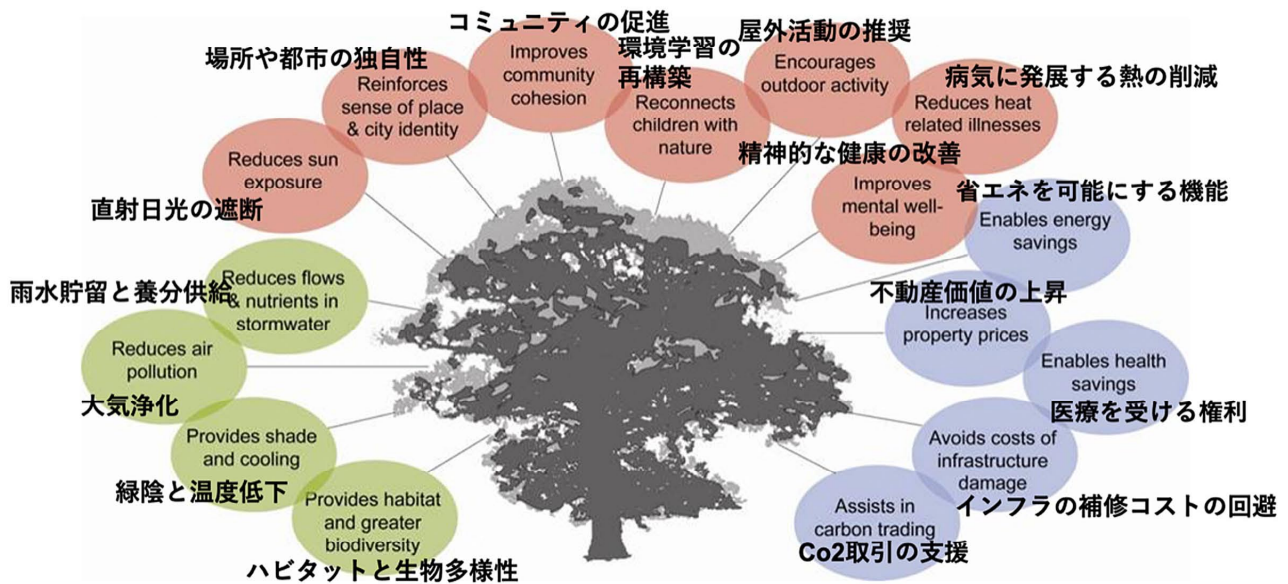
## 1. はじめに

近年気候変動や生物多様性など、都市における人と自然に関わる様々な課題を、緑や森で解決しているとする“アーバンフォレstry”の取り組み(アーバンフォレスト戦略・計画)は世界の至るところで行われ始めています。当協会においても、そのような世界の潮流を日本に紹介するため、一昨年(2019年)国際シンポジウムを開催し、オーストラリアやアメリカの先端事例を発表していただきました。また昨年度より当協会の事業方針にもアーバンフォレストの推進が加わり、本格的な取り組みが始まっております。

これまで私は、当協会や日本造園建設業協会、そして都市防災美化協会などのご依頼で、海外の街路樹マネジメントについて調査や報告をさせていただいておりますが、今回はメルボルン市のアーバンフォレスト戦略を振り返りながら、その源流となるアメリカの取り組みについてご紹介いたします。

## 2. メルボルン市のアーバンフォレスト戦略<sup>1)</sup>

気候変動による森林火災や干ばつ、暴風害、洪水と、大きな影響を受けているオーストラリアで、その取り組みをいち早くスタートしたのは人口第2の都市メルボルンです。2009年に観測史上最高の摂氏46.4度を記録したメルボルンでは、森林火災とその熱波によって500人以上の方々が亡くなりました。経済成長を続ける同市は、都市の人口増加に伴う開発により山林が減少し、都市のヒートアイランド現象がさらに強まる状況にありました。それらの課題解決のため、2012年より“森の中の都市づくり”を目指すというアーバンフォレスト戦略を実施し始めました。これは都市の中の森ではなく、森の中の都市をつくることにより、ヒートアイランド現象を大幅に抑え、生物多様性を確保し、都市洪水を防ぐ、そして気候変動に対してレジリエントな都市を目指すというものです。



都市の樹木によってもたらされる恩恵 (The Woodland Trust UKより引用)

図1 アーバンフォレストの恩恵

このアーバンフォレスト戦略の柱となっているのは、樹冠被覆率を増加させるということです。市の調査により、ヒートアイランド現象に対して最も費用対効果のよい方法の一つは、最低30%の樹冠被覆率を達成することであるという合意が形成され、2012年時点で20%程度しかない市街地の樹冠被覆率を2040年までに40%にするとの明確な目標を掲げています。

道路や歩道に対する熱射を和らげ、蒸散作用により気温を下げる街路樹は、その目標達成のために重要な役割を担っています。街路樹のない歩道への整備だけでなく、新たな中央分離帯をつくり、樹冠が大きくなる樹木を植栽し、大幅に道路上の樹冠被覆率を改善させるなどの取り組みが行われています。

表1 メルボルン市のアーバンフォレスト6つの戦略

**戦略1：樹木被覆率を増やす**

目標：公共樹木による樹木被覆率を2040年までに22%から40%に引き上げる

**戦略2：アーバンフォレストの多様性を高める**

目標：構成する樹木は1種で5%以内、1属で10%以内、1科で20%以内に

**戦略3：植栽の健康状態の改善**

目標：メルボルンの全樹木の90%を2040年までに健全な状態にする

**戦略4：土壌と水質の改善**

目標：植物が健全に生育できる土壌水分量を確保する。水を大切に都市になる

**戦略5：都市の自然環境の改善**

目標：健全な生態系サービスを提供するために都市生態系や生物多様性を守り高める

**戦略6：地域社会とのつながり**

目標：地域社会が重要性をより広く理解し、つながりを深め発展に関わるようにする

メルボルン市のアーバンフォレスト戦略では樹冠被覆率目標のほか、樹種の多様性の確保、樹木の健康状態の向上、土壌湿度改善、生物多様性の向上、コミュニティの理解向上などの目標がありました。乾燥害や病虫害、水道水の供給制限などにより大きな被害が樹木に発生しており、それらの被害を軽減するために乾燥に強い樹木を導入し、また樹種の多様性を確保し、雨水が植栽帯などに集まるようにして、被害の拡大を防止しようとしています。

また、樹木がもたらす生態系サービスを最大化するために、2040年までに90%の公共樹木を健康にするという目標を立て、樹木の診断、衰退樹木の植え替え、更新が実施されています。

コミュニティの理解向上については、コミュニティへの説明の機会を重ね、市民とともに目標や数値を検討して取り組まれています。「初めは多くの人々の同意を得られなかったが、根気よく説明をして理解を求め、一緒に解決する目標を立てたので、反対していた人々が協力者になり、スムーズに進めることができた」と言っていたイアン・シアーズ氏の言葉が印象的でした。

オーストラリアではメルボルン市を皮切りに、その他の多くの都市でもアーバンフォレスト戦略が立てられています。このようなアーバンフォレスト戦略の基礎を築いてきたのはアメリカ政府です。

### 3. アメリカ政府が進めるアーバンフォレスト計画

アメリカのアーバンフォレストの先導役はアメリカ政府、米国農務省森林局（以下、米国森林局）です。米国森林局がアーバンフォレスト計画や戦略を推進する理由は、アメリカの人口の8割以上が都市部に住んでおり、また都市への人口集中がさらに高まっている状況下で、アーバンフォレストは人々や野生生物に多大な利益をもたらすエコシステムであると捉えているからです。<sup>2)</sup>

米国森林局は2000年に国内全域のアーバンフォレストの樹冠被覆率・緑の種類・分布・生育状態など

の自然資源調査を実施し始め、10年ごとにその情報を更新して状況や傾向を公表しています。また都市やコミュニティに樹冠被覆率を高めるための具体的な対策方法などの情報を提供しています。そのようなサポートの下、アメリカの主要都市がアーバンフォレスト計画や戦略を打ち出し、中期および長期的な視点での取り組みを始めています。

米国森林局が各都市に対して、まず現状の樹冠被覆率を把握し、目標とする樹冠被覆率を設定し、そしてその目標を達成する期日を明確にすることを推奨しています。またステークホルダーの理解者を増やし、コミュニティに賛同を得る取り組みも重要とされています。<sup>3)</sup> このような取り組み方法をメルボルン市も参考にしたと思われます。

米国森林局のホームページでは63都市の現在の樹冠被覆率と目標とする樹冠被覆率を見ることができ(図2、2021年3月現在、更新中のためアクセス不能)、各都市がその方法を採用していることがよくわかります。

落葉樹林が多い温帯の地域では、都市における樹冠被覆率の目標は平均40%とされ、その目標に近づけるように各都市が取り組んでいます。例えばワシントンDCは、2013年35%の樹冠被覆率を2032年までに40%に、ニューヨーク市は2010年21%を2030年までに30%、砂漠地域のアリゾナ州フェニックス市は2013年9%を2030年までに25%と大幅に増加する計画が立てられています。

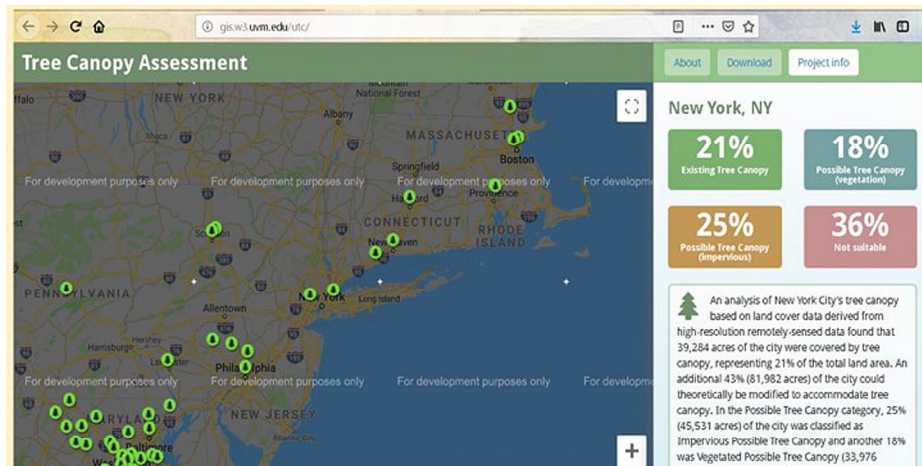


図2 米国農務省森林局のウェブページで紹介されているアメリカ各都市の樹冠被覆率 (<http://gis.w3.uvm.edu/utc/>) 63都市の樹冠被覆率と目標値を見ることができる

台風などの被害が多い日本では樹冠被覆率を高めるのは無理ではないと思われる方もおられるかもしれませんが、世界ではハリケーンやサイクロンの多い地域でも樹冠被覆率を高める取り組みが行われています。例えば、ハリケーン被害の多いフロリダ州のノースポート市では35%の樹冠被覆率を目標に設定しており、自然樹形を大きく損ねるぶつ切り剪定は樹木条例で禁止されています。<sup>4)</sup>

また同じく、フロリダ州マイアミ・デイド郡ではハリケーンや病害虫の被害により数千本の樹木が失われ、他の大都市に比べ樹冠被覆率が大きく劣ってしまったため、民有地における樹木の伐採や移植を、役所の許可を得なければ実施できないように法律で制限しています。<sup>5)</sup>

#### 4. アーバンフォレストを支える価値の数値化

このようにアメリカの各都市においてアーバンフォレストに対する取り組みが社会的に受け入れられてきた背景には、アーバンフォレストの価値が数値化され、その費用対効果がソーラーパネル設置などの代替的な環境管理対策より高く評価されてきたからです。費用対効果が社会的にシビアに問われるアメリカでは、樹木自体の価値評価手法についても古くから協議され、CTLA評価手法が確立されています。<sup>6)</sup>

二酸化炭素の吸収固定や蒸散・緑陰によるヒートアイランド現象緩和などの生態系サービスについて



は、長年数値化が困難でした。しかし、1990年代不況による連邦政府や州政府による予算削減の圧力の高まりをきっかけに、その価値の数値化が進みます。その数値化を主体的に進めていったのも米国森林局でした。<sup>7)</sup>

米国森林局では実質的な経費の削減や代替的な環境管理対策への支出を避けるために、アーバンフォレストの定量的評価、貨幣価値換算を行う様々なコンピュータモデルの開発が開始されました。主なものとしては、街路樹の構造、生態系サービスを多角的に解析するStreet Tree Resource Assessment Tool for Urban Forest Managers(STRATUM)というモデルや、樹冠被覆率に基づく流域解析やアーバンフォレストの炭素蓄積量解析などのモデルです。そして2000年代に入り、利用者の利便性や可視性などの向上のために、これらのコンピュータモデルはi-Treeとして統合されました。<sup>8)</sup>

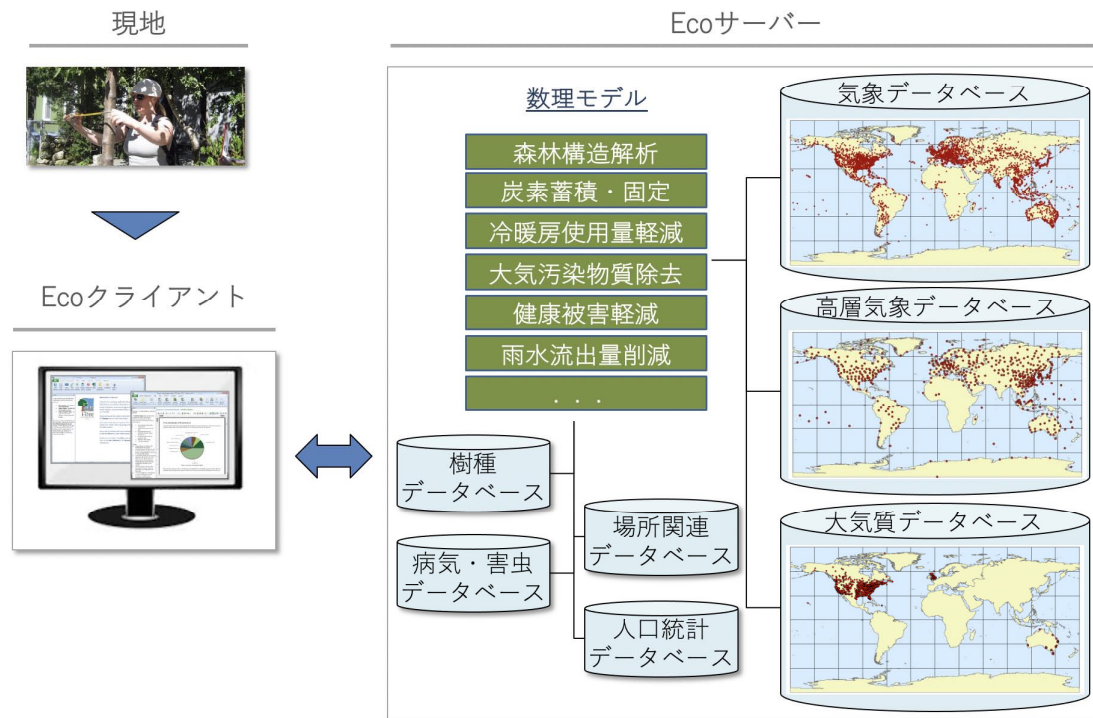


図3 i-Tree Ecoのシステム構成と処理フロー<sup>9)</sup>  
解析には気象や大気質、場所関連など様々な基礎的データが必要

i-Treeは、樹木による生態系サービスの定量的評価を行うためのコンピュータプログラム群の総称で、大気汚染・気象・高層気象データ、および場所関連・樹種・病虫害データを用いてアーバンフォレストの構造や生態系サービスを解析・提示することができ、無償提供されています。最も多い利用者は地方自治体の街路樹担当者で、このツールを用いて街路樹台帳や管理計画の作成を行っています。

また、i-Treeの解析結果に基づいて、政策決定やアクションプラン作成のための目標値の設定、マスタープラン構築、費用対効果の分析なども行われており、現在ではアメリカをはじめ、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパ各国の政府機関、地方自治体、コンサルティング会社等により広く利用されるようになっていきます。

アメリカの各都市は、このように貨幣換算された街路樹などの都市樹木の価値について、非常に積極的に市民にPRをして、アーバンフォレスト計画や街路樹の施策を進めています。ビルや高速道路沿いの看板、バスやバス停などで、樹木の価値や街路樹の管理費に対する便益等についての広告を掲載したり、街路樹にその樹木がもたらす便益を記した大きなタグなどを取りつけたりするなどのアプローチが行われています。街診ニュース第6号でご紹介したニューヨーク市の街路樹マップにおける生態系サービスの貨幣換算もi-Treeによるものです。



写真提供 Seed Consulting Services Jenni Garden

図4 i-Treeによる評価結果の情報提供例

市の全樹木による冷却効果を示す看板(上)と当該樹木の便益を明示するタグ(下左)、樹木の酸素排出量や日陰の面積などの明示したタグ(下右)

## 5. おわりに

メルボルン市アーバンフォレスト戦略の生みの親であるアメリカでは、多くの主要都市はアーバンフォレスト推進のために長期的な樹冠被覆率の目標を設定し積極的に取り組み始めております。その先導役はアメリカ政府であり、社会的な理解を得られる原動力はアーバンフォレストの価値の数値化が大きく関係していることが他国への広がりから見ても明らかだと思えます。

日本においては一昨年7月より国土交通省が「グリーンインフラ推進戦略」を公表し、昨年3月からはグリーンインフラ官民連携プラットフォームができ、本格的な取り組みが始まっております。しかし現在、その内容には樹冠被覆率を高めるようなアーバンフォレストの取り組みは見られませんので、今後積極的にPRを行い、組み込んでいただく必要があると考えております。<sup>10)</sup>

また、日本でのi-Treeによる調査はいくつかの大学などで行われ始めていますが、それらは開発者の支援により可能となっている状況で、政府や地方自治体のサポート下にある海外のようにi-Treeを誰もが使用できるようには現在なっていません。日本政府が開発を依頼し、日本中どこでも利用できるようにすることがグリーンインフラを進めていく上で極めて重要だと思えます。

次回はアーバンフォレストを育て維持するための具体的な手法、樹形管理や植栽基盤、樹木保護規格などについてアメリカの事例をご紹介します予定です。

### <参考資料>

- 1) City of Melbourne(2011)Urban Forest Strategy  
<https://www.melbourne.vic.gov.au/SiteCollectionDocuments/urban-forest-strategy.pdf>
- 2) USDA Forestry Service ウェブサイト <https://www.fs.usda.gov/managing-land/urban-forests>
- 3) USDA Forestry Service(2016) The Sustainable Urban Forest Guide: A Step-by-Step Approach  
<https://urbanforestrysouth.org/resources/library/ttresources/the-sustainable-urban-forest-guide-a-step-by-step-approach>
- 4) フロリダ州ノースポート市 ウェブサイト、Planning and Zoning: Tree Ordinance Summary
- 5) マイアミ・デイド郡 ウェブサイト、Tree Removal or Relocation Permits
- 6) 當内匡 (2020) 海外の街路樹のマネジメントと近年の動向、樹木医学研究第24巻
- 7) 當内匡 (2020) 米国における街路樹マネジメント、都市防災美化協会「都市防災・美化のための街路樹管理技術・体制のあり方に関する調査・研究」
- 8) 平林聡 (2019) 緑の価値の客観的評価と波及効果－欧米諸国におけるi-Treeの実例を踏まえて－、日本緑化工学会誌44(3),
- 9) 平林聡 (2021) i-Treeの日本における活用と普及方策、グリーン・エージNo.567
- 10) <https://www.itreetools.org/documents/220/iTreeWebinarJapan.pdf>



## レジストグラフ研究会発足の経緯と活動【第1話】

### — 街路樹診断協会の前身 —

副会長 笠松 滋久

もうすでに四半世紀前の事になりますが1996年に街路樹診断協会の前身となるレジストグラフ研究会が発足されました。レジストグラフやインパルスハンマーなどの樹体内部測定機器類の精度確認を行う目的で研究を開始しました。

ここでは研究会発足の経緯と活動内容について、当時のメモと記憶をたどりながらですが記しておきたいと思います。

#### 1995年・樹木診断機器の検証を決意

レジストグラフ研究会発足の前年、1995年は私にとって記憶に残る出来事が多い年でした。

当時私は東京に単身赴任していました。1月の三連休で大阪に戻り阪神淡路大震災に被災しました。3月に東京で地下鉄サリン事件とニアミスしました。統一地方選挙で青島幸夫東京都知事、横山ノック大阪府知事が誕生した年でもあります。

この頃、私は日本樹木医会の技術部会に所属しており、そのときの技術部会長が神庭正則さん(街路樹診断協会 前会長)でした。そして技術部会員は、日本樹木医会が発行する機関誌『TREE DOCTOR』の編集委員会にも参画し編さん作業に加わっていました。休日に技術部会と編集委員会が二本立てで開催され、当時は荒川区町屋にあった事務所(分室)に集まりワイワイガヤガヤと議論がなされていました。その時の編集委員長が当時東京都第一建設事務所に勤務されていた山本三郎さん(現・街路樹診断協会顧問)で、編集委員には有賀一郎さん(現・街路樹診断協会理事・資格審査委員長)が在籍されていました。

1995年の年の瀬も迫った頃、神庭さんから声をかけられました。たぶん技術部会と編集委員会の後に居酒屋で一杯やっていた時だったと思います。忘年会だったのかもしれませんが。「診断機器が実際に活用できるのか検証しないとイケない。一緒に試験しましょう。」といった話だったと記憶しています。当時、日本で\*1レジストグラフを導入していたのは神庭さんが在籍していたエコルと、私の所属会社である東邦レオだけでした。

\*1: レジストグラフは木造文化財や木製遺物の調査で研究機関が導入したとの話を聞いたことがありますが、どちらが先に導入したのか定かではありません。そのため日本の造園・林業界の中で最初に導入されたのが正しい表現となります。

#### 世界の技術情報を収集・ISA (International Society of Arboriculture)

技術部会と編集委員会に在籍していたことで情報入手が早かったと思います。1994年に樹木医15名と堀大才先生がISA(International Society of Arboriculture)のフランス大会に参加され、倒木危険度診断の資料を持ち帰られています。その大会参加報告が『TREE DOCTOR』No.3(1995年)に掲載され、No.4(1996年)には「樹体の力学的適応とVTA法による樹幹の内部診断」と題して堀大才先生が寄稿されています。

しかし、神庭さんはそれ以前の1992年に、東京農工大学の渡辺直明先生より、ヨーロッパで倒木危険度診断技術が存在する話を聞いておられました。当時から神庭さんと渡辺先生は日本では数少ないISA会員であり、世界の情報に数多く接しておられました。

#### 1996年・レジストグラフ他、樹木診断機器の検証開始

##### ●服部緑地の危険木調査

そのような経緯で、翌1996年2月頃よりレジストグラフによる試験が開始されました。開口空洞のある樹木でレジスト針を貫入しながらの確認や、樹木ごとに最適なギア比\*2の確認などから取り組みました。

また、2月から3月にかけて大阪府北部公園事務所の発注で、服部緑地の危険木調査が実施されました。目視による生育状況調査が150本、詳細調査として機器を用いた診断が30本なされています\*3。この調査ではレ

\*2: 当時のレジストグラフM-300では、数種のギア(歯車)を取り替えることで貫入針の進入スピードをコントロールしていた。硬い材では高いギア比の歯車に、軟らかい材では低いギア比の歯車に取り替えて用いた。

\*3: 当時はまだ外観診断と呼べる項目での調査や精密診断と呼べる調査域には達しておらず、それらの言葉も用いられていなかった。生育状況調査、詳細調査と報告書には記されている。

ジストグラフの他に、赤外線カメラによる樹体温度による診断、電磁波レーダーによる樹体内部状況の確認もあわせて実施されました。

表-1 服部緑地の調査で用いられた機器

使用機材☒	メーカー名☒	機種
熱赤外線カメラ☒	日本アビオニクス社☒	TVS-2000
電磁波レーダー☒	応用地質(株)☒	ジオレーダーI モデル2441
貫入抵抗値測定器☒	(独)IML社☒	レジストグラフM-300

●東京農工大学草木演習林における検証と成果発表

同時期に、インパルスハンマー(音波伝達速度測定器)、エンドスコープ(内視鏡)、フラクトメーター(成長錘採取試料の強度試験器)といった、ドイツでVTA診断に用いられている機器類も輸入し、手探りで機器の使用方法を確認していきました。

そしてこの年の7月初旬に、渡辺直明先生の指導のもとに本格的な機器の検証に入りました。メンバーは神庭正則団長のもと、笠松滋久、滝川正義、永石憲道と樹木医3期生の小池伸男さんの5名です。

渡辺先生のお計らいにより群馬県にある東京農工大学の草木演習林に入り、樹木の腐朽箇所を切り取り、試験用試料(円盤)を多く採取しました。そして試料が乾燥する前にレジストグラフとインパルスハンマーで測定しデータを集めました。測定精度の確認、腐朽状況や形状の違いによる誤差確認、エラーが生じる条件など、それぞれの機材の特徴を確認しました。その結果、レジストグラフとインパルスハンマーは調査機器として使えるとの判断になりました。

この時の試験結果は、1996年11月16日に東京農業大学で開催された「樹木医学研究会\*4 第1回大会」で報告されました。

\*4:現在の樹木医学会



写真-1 東京農工大学草木演習林で試料となる腐朽部の円盤を採取する神庭前会長



写真-2 草木演習林近くのシイタケ栽培農家のホダ木でレジストグラフの試験を実施する筆者

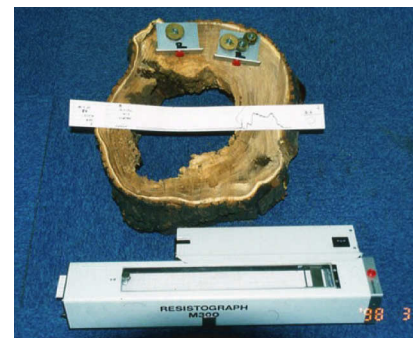


写真-3 当時用いられていたレジストグラフM-300(上)とインパルスハンマー(下)



レジストグラフは材の硬さに応じてギアを入れ替えていた。

樹木医学研究会 第1回大会 での報告内容

開催日:1996年11月16日(土) 開催場所:東京農業大学

- 生立木の内部腐朽測定法(I)ーインパルスハンマーについてー 永石憲道・笠松滋久(東邦レオ(株))・神庭正則・滝川正義((株)エコル)・小池伸男((株)小池農園)・渡辺直明(東京農工大・農)
  - 生立木の内部腐朽測定法(II)ーレジストグラフについてー 滝川正義・神庭正則((株)エコル)・永石憲道・笠松滋久(東邦レオ(株))・小池伸男((株)小池農園)・渡辺直明(東京農工大・農)
- ※翌1997年の第2回大会には「音速測定を用いた樹体内部欠陥診断」を永石憲道、神庭正則、笠松滋久、渡辺直明で発表している。

私たちが草木演習林で試験を実施した直後に、東京の表参道のケヤキが風もない日に倒木しました。そしてこの年の9月の台風17号で多くの街路樹木が倒れ、不幸にも尊い人命を奪う事故が発生しました。街路樹の安全性に対しての危機感が急激に高まった年でもありました。

(次号に続く)



## デイゴの花が咲き

大城 裕治(九州支部/庭裕)

今年はデイゴの花がよく咲いています。

「デイゴの花が咲き 風を呼び 嵐が来た〜♪」THE BOOMの『島唄』の冒頭の歌詞です。

沖縄では昔からの言い伝いで「デイゴが見事に咲く年は台風の当たり年で、天災に見舞われる」と言われています。『島唄』はまさしくこのことを歌っています。

実際にデイゴの花が見事に咲けば、台風が本当にやってくるのかどうかはわかりません。ですが見事に咲くということは、近年台風などの影響をあまり受けずに生育状態が良いということになります。確率的にそろそろ台風がやってくるということになりますので、あながち間違いではないかもしれません。

このデイゴですが、十数年前からデイゴヒメコバチによる被害が相次いでいて、花を見る機会が激減していました。また光(夜間照明)に対して敏感で、コンビニの近くや公園などの街灯下では咲きません。自動車のヘッドライトにも反応して、歩道側は咲いているが車道側は咲いていないなどの報告もあります。台風害、虫害、光害でデイゴの花はとても貴重なものとなっています。

そんななかで、毎年たくさんの花を咲かせるデイゴがあります。大宜味村宮城島のデイゴです(沖縄県の名木百選)。沖縄本島北部のヤンバルという自然豊かな地域に生育しています。夜は影響を受けるような光は無く、台風や潮風から避けるように島かげに生育しています。

他のデイゴがよく咲いているので、今年もさぞ見事に咲いているのではないかと訪れてみました。ところが不思議なことに例年の3割程度しか花をつけていませんでした。原因はわかりません。これから調査、観察していこうと思います。

今年デイゴがよく咲いている原因はわかっていません。気温や雨量などの影響も大きいと思います。「デイゴが見事に咲く年は台風の当たり年で、天災に見舞われる」。台風は海水をかき混ぜて、上昇しすぎた水温を下げてくれます。珊瑚や海の生物にとってはありがたい事ですし、一概に悪者とは言えません。あまり大きな台風が来ないことを祈るばかりです。



大宜味村宮城島のデイゴ 例年



大宜味村宮城島のデイゴ 今年

## 昨今の気温について

長尾 行晃(関西支部/東光園緑化株式会社関西支店)

今年3月最終週、当社近くの小学校前にて満開の桜が見受けられ、4月の初めには葉桜になっていました。卒業式を終えて満開になり、入学式を迎える前に散る桜。

四季がある私たちの国では季節の風物詩があり、昔から春は桜、秋は紅葉といったように樹木で季節を感じる事が出来ました。

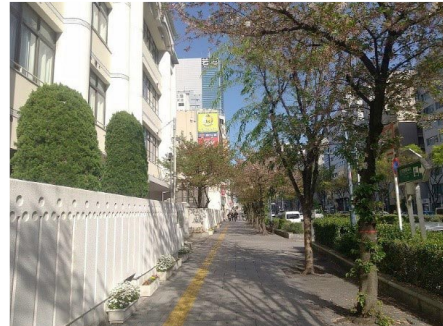


特にサクラの花は卒業式、入学式に欠かせないものだと思っていますが、昨今の気温の変化には植物も惑わされているようで、場所によってはピンポイントを外したような咲き方をする場合があるように感じられます。他にもハナミズキが3月に咲いていたり、サツキが7月末まで咲いていたり…。

最近では冬らしきものが終わると、春らしき日からいきなり一時的な夏を迎えます。5月頃に30度近くの日を迎え、新芽が整う時期の植木にとっては地獄のような日々。この頃に水の量を間違え芝生や苗木など植えてしまうと、土の吸収や蒸発のほうが植木に行くよりも早かったりして枯れの原因になってしまいます。私はさんざん痛い目にあいました。皆様もお気をつけて。



3月末のサクラ



4月初めのサクラ(葉ザクラ?)

## 私のやりがい たいどう 仕事も躰道も

稲見 安希子 (関東支部 / 株式会社日比谷アメニス)

中学生の頃から造園や植物に興味を持ち、大学でも樹木を専門に学びました。

そして5年前、造園会社である(株)日比谷アメニスに就職しました。配属されたのは、主に公園工事などの公共工事の現場監督を行う工事三部。個人的には、公園管理や植栽管理のイメージがありました。当時約50人の工事部に1人も女性がいなかったのもあり、青天の霹靂でした。

工事、それも土木の知識など皆無で、図面も読めず、わからないことだらけ。そんな中、様々な方に助けて頂きながら、現在も頑張ることができています。自分が携わった公園が多くの人に利用される光景を見るのは、格別な達成感を感じます。

私には、仕事にやりがいをもって続けられる理由の1つに、大学時代から続けている「躰道(たいどう)」があります。躰道とは、戦後に空手から派生した武道です。空手のような突き蹴りに加え、体を横に倒した状態や、バク転やバク宙などあらゆる態勢から技を繰り出すアクロバティックな武道です。

現場関係者に躰道の話をする、皆さん温かく応援して下さいます。大会には自社の社長や社員、他業者の作業員さんも応援に駆けつけて下さいました。幸運にも、4年に1度の世界大会で4連覇を果たした現役チャンピオンの先生に師事し、私も入社2年目に世界大会に出場、団体競技で優勝することができました。

職場で躰道を応援して頂けることは、仕事でも躰道でも大変励みになっています。コロナで延期になった世界大会に挑戦したら、その後は子供が欲しいです。そしてライフスタイルが変わっても、仕事も躰道も続けていきたいです。皆様とのよい縁に恵まれ、充実しています。本当に感謝です。



体を倒しながら蹴る半月あて



片手側転



工事現場にて



2017年躰道世界大会 アメニス応援団の皆さんと

## 報告

## 「切断された根系直径と発根量の関係 および 太根切断箇所の処置方法に関する研究」を開始

海外の根系保護範囲(CRZ:Critical Root Zone)や樹木保護範囲(TPZ:Tree Protection Zone)の事例を踏まえつつ、日本国内の現状に対して現実的な根系の保護方法や、根を切断する場合の処置方法を検討するため、「切断された根系直径と発根量の関係 および太根切断箇所の処置方法に関する研究」を開始しました。

街路樹は、埋設管設置や電線地中化の工事により根元近くを掘削される場合があります。また、根上がりによる舗装隆起の改修工事によって太根が切断されているケースもたびたび見かけます。公園や建物周辺の樹木も、縦坑掘削、埋設管や歩行路などの工事で根が切断される場合があります。このように都市樹木の根は頻繁に障害を受けており、それが原因となり根株の腐朽が進行し、倒木の危険にさらされている樹木が多く存在しています。

しかし、根の切断面直径と発根量の関係を示す報告は見受けません。そして、太根切断箇所の処置方法は確立されていないのが現状です。

そこで、技術委員会では、切断された根系直径と発根量の関係を確認するための調査と、太根を切断した際にどのような処置を講じればよいかを確認する試験を会員企業の圃場で開始しました。今回、試験の場を提供していただいた株式会社富士植木様、アゴラ造園株式会社様にお礼申し上げます。

### ①根系切断の許容直径調査(2021年1月15日)

根の切断面直径と発根量の関係を調べる調査として、1年前に街路から圃場(株)富士植木 市原圃場)に移植されたサクラ(ソメイヨシノ)2本を掘り起こし、切断面直径ごとに発生した新根の数を調べました。新たに多くの根が発生している箇所は、切断面の癒合も早く、樹体の回復にも寄与する根系であることが想定されます。反面、新根の発生数が少ない根や全く発生していない切断面は、腐朽菌が侵入しやすく、根系切断箇所から根株腐朽につながるリスクが高くなります。



根系発生量を調査したソメイヨシノの前で記念撮影  
(株)富士植木 市原圃場、2021/01/15)

### ②太根切断箇所の処置方法試験(2021年2月24日～)



太根切断面の処置方法試験作業風景  
(アゴラ造園(株) 深谷圃場、2021/02/24)

太根切断箇所の処置方法試験の試験区を設けました。圃場(アゴラ造園(株) 深谷圃場)に植えられているシラカシ、ケヤキ、クスノキの根系を掘り起こし、太根切断面に、チオファネートメチル系の塗布剤、シリコン系シーリング剤、アスファルト乳剤、浴室タイル補修などに用いられるエポキシ系パテの水中ボンドを塗布しました。それぞれの癒合状況や腐朽菌の侵入状況を対比し、最適な根系切断面処置方法を確認する予定です。

太根切断箇所の処置方法試験の結果を得るには一定の期間を要しますが、学会発表も視野に調査、試験結果を取りまとめ、広



く発表していく予定です。

また、この取り組みの先には、当協会のビジョンにも掲げられている、日本における根系保護範囲(CRZ:Critical Root Zone)あるいは樹木保護範囲(TPZ:Tree Protection Zone)の基準作りにつなげていきたいと思ひます。



太根切断箇所の処置方法試験  
切断面への保護剤塗布状況  
(アゴラ造園(株) 深谷圃場、2021/02/24)

**海外の例**

海外ではすでに、行政単位ごとにあるいは業界団体で指針・基準が設けられて運用されています。

**【アメリカの場合】**

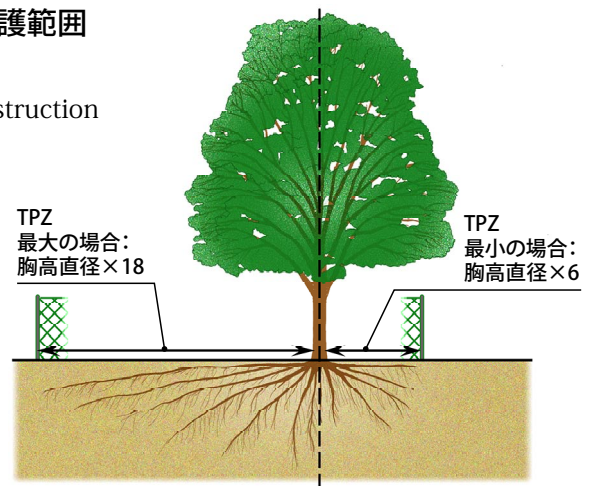
米国国家規格協会の承認を得ている「樹木、低木、その他木本植物のマネジメント—標準仕様」(2012)によると、樹木保護範囲は樹木の幹を中心に、幹直径の6~18倍を半径とする円形エリア。増加係数はアーボリスト(都市樹木専門家)が樹種回復力、樹齢、健康状態、根系、根の深さ、土壌状態などを基に判断することとされている。またその範囲が守れない時には、樹木を守るためにさらなる適切な緩和策を施すこととなっている。<sup>\*1)</sup>

この仕様について、ISA(International Society of Arboriculture)が解説本(Best Management Practices)を出版している。

**ISA (International Society of Arboriculture) の場合、樹木保護範囲 (Tree Protection Zone)**

出典: Best Management Practices - Managing Trees During Construction (Second Edition) 2016

根を損傷させることがないよう、TPZ(Tree Protection Zone)内に車両や重機で立ち入り、盛土や土壌掘削することに対する制限が設けられている。TPZは、樹種3区分(ダメージに対する回復力の大・中・小)、樹齢3区分(若齢・熟齢・老齢)の組み合わせにより範囲が設定される。幹を中心に幹直径の6~18倍を半径とする円形のエリアとなる。増加係数は、ダメージに対する回復力が強い若い樹木ほど低く、回復力が弱い老木ほど高く設定されている。



**TPZの半径を決めるためのガイドライン<sup>\*2)</sup>**

建設によるダメージに対する樹種特性	相対的な樹齢	TPZの増加係数
高い	若齢	6
	熟齢	8
	老齢	12
普通	若齢	8
	熟齢	12
	老齢	15
低い	若齢	12
	熟齢	15
	老齢	18

<sup>\*1)</sup> Tree Care Industry Association, Inc. (2012) ANSI A300(Part5)2012 -Tree, Shrub, and Other Woody Plant Management-Standard Practices (Management of Trees and Shrubs During Site Planning, Site Development, and Construction)

<sup>\*2)</sup> International Society of Arboriculture (2016) Best Management Practices: Managing Trees During Construction (Second Edition)



## 各委員会の活動報告(2021年1月~5月)

## 事業委員会

委員長：野上一志、副委員長：當内 匡  
委員：宇田川 健太郎、本山 圭一郎、安田 卓宏、吉岡 威

協会が取り組んでいるアーバンフォレストについて、webセミナーを開始しました。まずは会員が勉強するため会員専用のセミナーとしました。

1月26日：第2回事業委員会(リモート開催) アーバンフォレストセミナーについてほか

3月17日：「アーバンフォレストを掘り下げる」webセミナー #1開催

『アーバンフォレストリーと日本における最近の動向』

講師：寺田 徹 氏(東京大学大学院准教授：新領域創成科学研究科 自然環境学専攻)

4月20日：第3回事業委員会(リモート開催) 第1回アーバンフォレストセミナーのふりかえりと第2回セミナーの開催について

## 技術委員会

委員長：石井 匡志、副委員長：高村 聡  
委員：小島 和夫、高田 恵一、服部 雅樹、堀内 大樹

都市樹木の周囲では様々な工事(縦坑掘削、埋設管や歩行路などの工事等)が頻繁に行われ、根が切断される場合があります。それが原因となり根株の腐朽が進行し、倒木の危険にもつながります。

そこで、工事の際の根の保護に関して、海外の根系保護範囲(CRZ:Critical Root Zone)や樹木保護範囲(TPZ:Tree Protection Zone)の事例を踏まえつつ、日本国内の現状に対して現実的な根系の保護方法や、根を切断する場合の処置方法を検討するため、「切断された根系直径と発根量の関係 および太根切断箇所の処置方法に関する研究」を開始しました。

1月15日：根系調査 株式会社富士植木市原圃場 8:00~16:00

1月21日：技術委員会(リモート開催、15:00~17:00)

2月12日：根系調査 アゴラ造園株式会社深谷圃場 8:00~16:00

2月16日：技術委員会(リモート開催、14:00~16:00)

4月27日：技術委員会(リモート開催、15:00~17:00)

## 広報委員会

委員長：萱森 雄一郎、副委員長：秋元 信二  
委員：笠松 滋久、向山 直宏、阿部 竜也、伊東 麗子

2021年1月8日からの約2か月半に及ぶ緊急事態宣言期間となりましたが、診断事業にかかわる企画をより早く発信していくために、新しいホームページやリモート会議をフル活用して情報発信をしています。

第一弾としまして、アーバンフォレストについてより深い関心や理解を持っていただけるよう、アーバンフォレスト写真コンテスト(街路樹・並木)を企画し、4月1日より募集をスタートしました。会員専用ホームページの専用フォームからの応募となり、応募いただいた写真は、審査委員会を設置して、厳正に審査を行います。ホームページの街路樹・アーバンフォレストマップに掲載するなど、アーバンフォレストのイメージを広げていくことにつなげたいと考えています。最優秀賞も含めて3賞を用意しています。

20周年記録本出版については、一昨年にビジョンとともにスケジュールを組みましたが、コロナ禍もあり、ずれ込んでいるため、25周年に向けた記録本として進めていきます。創業時の座談会を5月に行いました。

協会ホームページの改定に伴い、出版物購入

アーバンフォレスト写真コンテスト(ホームページ一部抜粋)

の利便性が向上しました。ぜひご活用ください。(販売実績状況：最新 樹木の危険度診断20冊、物が壊れるしくみ10冊 合計30冊：2020.11.10～2021.5.21)

「人と自然が共生する豊かで安全な都市樹木をめざして」をキャッチフレーズとして、さらなる協会の充実を推進していきます。

#### 活動報告

- ・会報(GAISHIN NEWS)の継続発行：第10号 2021年1月1日発行
- ・会員専用ページの運用：2021年3月1日開始
- ・広報会議(リモート開催)：第5回(2月10日)、第6回(3月24日)、第7回(5月19日)
- ・協会設立25周年記録本座談会(リモート開催)：創業時編(5月26日)

### 街路樹診断士認定委員会

委員長：有賀 一郎、副委員長：山下 得男  
委員：坂元 博明、三宮 洋、水野 優

1月：診断士認定に関するメール会議、資格厳格化に関する更新申請書の内容および書式の検討

2月：診断士認定に関するメール会議

3月：街路樹診断士更新申請受付、合否判定、更新処理

今回の東京都のマニュアル改定では、次のように書かれています。「根株診断を含めた発注の場合、診断実施者は、特に診断の専門性や正確性が求められることから、街路樹診断士(一般社団法人 街路樹診断協会認定)の資格を取得したのち、2年以上の街路樹診断等の実務経験を有した者とする。」しかし、最近、街路樹診断士の質の低下が指摘されています。

昨年の理事会で、街路樹診断士の質の低下について対策を講ずることになりました。最近の街路樹診断士新規登録申請者は、試験において、実技部分でほとんど合格ラインに達しておりませんし、登録更新申請者では実績のある方が、まじめに申請してくれているとは思えない申請書の内容でした。このことから、新規・更新において「資格認定の厳格化」が決められたわけです。

そこで、事務局では、今後の申請書作成は読みやすくきれいな書類ができるように手書きではなくPCでの作成に改善しています。

しかし、今回、手始めに更新申請の厳格化を実施しましたところ、申請書の書き方において指定した文字数や内容が不十分で、ほとんどの方が申請書再提出になりそうでした。それで基準を相当甘くしましたが、どうしても受けられない方が53人中11人もいました。今後はさらなる「資格認定の厳格化」が求められますので、身を引き締めて質の向上の努力をお願いいたします。

### 街路樹の害虫

クビアカツヤカミキリ、カシノナガキクイムシの活動が始まっています。フラスに注意して適切な対応・防除が必要です。

参考：クビアカツヤカミキリ情報 - 埼玉県環境科学国際センター  
(<https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html>)

参考：ナラ枯れ被害：林野庁 ([https://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/naragare\\_R2.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/naragare_R2.html))



クスベニヒラタカスミカメも注意が必要です。クスノキの葉を吸汁加害します。5月には幼虫(葉から吸汁)がみられ、6～7月は最初の羽化・産卵(葉柄に産卵)の時期となります。

(クスベニヒラタカスミカメは2015年に発見の外来カメムシ。葉には特徴的な褐色斑紋(吸汁痕)が生じます。そして早期落葉するため樹勢の衰退、さらには樹木枯死が懸念されます。)

6月30日まで募集!

## 各地のアーバンフォレスト写真コンテストを開催中

一般社団法人街路樹診断協会では「アーバンフォレスト推進」を活動ビジョンの一つに掲げています。

広報委員会では、協会員のみなさまに、アーバンフォレストについてより深い関心、理解を持っていただけるよう、

アーバンフォレスト写真コンテストを企画しました。

その第一弾として〈街路樹・並木〉を募集しております。

最優秀賞・優秀賞・特別賞を用意しています。ぜひ、ご応募ください!!

—アーバンフォレスト写真〈街路樹・並木〉の視点—  
身近な「アーバンフォレスト」に目を向けご応募ください。

- 日本の街路樹、並木、街道である
- 緑陰効果が高い
- 都市景観の向上に寄与している
- 歴史がある、地域に愛されている
- 生育に適した整備が施されている（植栽柵、間隔、植栽基盤等）
- 維持管理状況が良好といえる、管理者が大切に扱っている

【募集期間】 2021年4月1日～6月30日

【受賞者発表】 2021年7月中、ホームページで発表します。

【写真HP掲載】 2021年8月中、応募作品はホームページで発表します。

【募集内容】 写真1枚、名称と推薦の理由（簡潔に300字以内）

※画像データはJPEG、2MB以内としてください。

【応募方法】 会員専用ページの専用フォームより応募してください。

<https://www.gaishin.com/members/urbanforest01/>

【写真の使用】 応募された写真は、(一社)街路樹診断協会が管理する各種メディア（ホームページ、研修教材、会報、PRのチラシ等）で使用することがあります。

【応募にあたっての留意事項】

- ✓ 応募できるのは会員のみとします。
- ✓ 現在HPに掲載されている街路樹や都市樹木等も改めて応募することができます。
- ✓ 応募する作品は、原則として所属する支部の地域および支部がない地域のアーバンフォレストとし、他支部の地域や海外にあるアーバンフォレストは応募できません。（例：関西支部の会員は関西地域と関東・九州地域以外のアーバンフォレスト（仙台市や札幌市など）が対象）。
- ✓ 1人何点でも応募できます。



## 関西支部

## 【元茨木緑地樹木健全度調査業務】

茨木市より受注の、元茨木緑地リニューアルに向けての既存樹木の調査業務が終了しました。2年度にわたる大規模な調査で、今回の調査がリニューアル計画に活かされ、新たな元茨木緑地に生まれ変わります。

## 【自治体の動き】

NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会がコンサルタントより受注しました大阪市の公園樹木診断に、街路樹診断協会関西支部メンバーが協力を行いました。

## 【研修事業】

コロナ禍のため昨年延期となりました街路樹研修会(NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会と共催)はオンラインでの開催を検討中です。

## 九州支部

## 【役員会の開催】

第12期 第2回 幹事会(リモート開催) 4月26日(月) 16:00～17:00

## 【研修会の開催】

- (1) 第12期 内部技術研修会 ※街路樹診断士更新講習認定プログラム(6月11日(金) 15～17時リモート開催決定)
- (2) 第14回 樹木危険度診断講習会(秋季に沖縄開催を予定)

## 【診断事業】

2020年度 福岡市街路樹精密診断業務

発注者：一般社団法人 福岡県樹木医会

件名：令和2年度 街路樹調査業務委託(機器調査)

期間：2021年1～3月

業務概要：精密診断(貫入抵抗測定)64本、精密診断(弾性波測定)37本

## 本部

## 【常任理事会の開催】

第3回常任理事会(リモート開催) 2月16日(火) 15:00～17:00

## 【マニュアル改定特別委員会】

令和2年8月から令和3年1月まで、東京都マニュアル改定に関連する会議等を実施

## ■編集後記

熊本地震から4月14日で5年、ずいぶん復興が進みました。皆様からのご支援に改めて感謝申し上げます。さて、2020年11月より本協会のホームページがリニューアルされました。この内容を広報委員会で協議する中、「アーバンフォレストのページをどう充実させるか」が課題となりました。アーバンフォレストの定義と各所のマップを掲載する案が骨子としてありましたが、そのマップを決めるために必要な「協会が「これぞアーバンフォレスト」とする視点」がなかったため、当委員会で改めて定義いたしました。同時に、これらの視点を基に、会員から各地方のアーバンフォレストを推薦してもらうことで関心や理解を深めてもらおうと、写真募集の企画につながりました。今回は第一弾の『街路樹・並木の部』です。無名でも小規模でもかまいません。アーバンフォレストって何だ?から始め、次は我が地域の特別な緑を探してみませんか。たくさんのご応募をお待ちしております。

(広報委員 伊東)

## 一般社団法人 街路樹診断協会

## 関西支部

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内  
TEL・FAX:06-6444-3990

## 九州支部

〒808-0124 福岡県北九州市若松区大字安屋900番地11  
一般社団法人 北九州緑化協会内  
TEL・FAX:093-741-0022

## 北陸連絡事務所

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内  
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

## 台湾連絡事務所

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處  
台北市四維路176巷2號1樓  
TEL:+886 02-2325-6911